平成２８年１０月９日
ＮＰＯ法人四季の森里山研究会
宮下修一・青木克之・尾崎一源・林　紀夫

里山の実りと種子の知恵

１．実（果実）とは？

実とは、受粉しためしべの子房が発達したもので、中に種が入っています。被子植物の実は、繁殖戦略として動物の食料になる部分を種子の周りに発達させ、食われることによって動物の体内を通じて種子の散布を行う目的で進化したもの。裸子植物には子房がない。

２．種子の散布の種類

・風による散布
・動物に運ばせる動物散布（付着型、被食型、貯蓄型）
・ただ落ちるだけの重力散布（周食型：果肉が食べられ種子は残り発芽する、貯食型：種子自体が餌となってしまうが、食べ残された種子が発芽する）
・水の流れによる散布
・自らはじける自動散布

３．ひっつきむしの話

・より広い場所や育つのに都合のよい場所に種を広げる（散布）工夫のひとつ
・ひっつきむしのタイプ
　フック型、逆さ棘型、ヘアピン型、粘着型
・公園で見られる主なひっつきむし
　キンミズヒキ、ヌスビトハギ、コセンダングサ、イノコズチ、チカラシバ、フジバカマ、ガンクビソウ

４．鳥と実の関係

・赤い実は鳥に目立つ。しかし、鳥は、赤、緑、青以外に紫外線を感じ、黒などの果実を感知できる。
・種子は消化されないように堅い殻で守られ、糞と一緒に体外に出され、そこから発芽する。
・鳥が体内に種子を留めておける時間は20～30分。長くて1時間。散布距離は、小型で数十m、大型の鳥で数百mともいわれている。

５．エゴノキの不思議

エゴノキはエゴノキ科。果皮にエゴサポニンを含み有毒。かつては、石鹸の代用にしたり、魚とりに使った。名は、果皮がえぐいからとも。エゴノキに来る鳥は？エゴノキの不思議は？

６．秋の果実の語源を探ってみよう

「柿」、「栗」、「梨」・・・

次回の自然観察会は11月13日（日）13時よりは「里山の紅葉」です。